

口腔解剖学

講 師	小山田 常一	実施時期 単 位 数	第 1 学年後期 2 単位 (30 時間)	実務経験	○
一般目標 (GIO)	顔面、口腔およびその周囲組織の成り立ちを理解するために、口腔とその周囲組織の構造と機能に関する基本的知識を修得する。				
授 業 概 要	ヒトの口腔周囲の構造(歯の形態を含む)について教授する。基本的に系統別に授業を行うが、適宜局所解剖の観点からの説明を行う。				
学 習 方 法	講義・DVD視聴・実習				
成績評価の方法	定期試験、出席状況等により総合的に評価する。(筆記試験90%、出席状況10%)				
教 科 書	全国歯科衛生士教育協議会(監) 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」医歯薬出版				
履修上の注意	口腔解剖学、さらには他の多くの科目を学ぶ上で基礎となる科目である。 積極的な質問・議論を通して十分な理解が望まれる。				
参 考 書	全国歯科衛生士教育協議会(監) 歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1「解剖学・組織発生学・生理学」医歯薬出版 歯の解剖学(金原出版)、分担解剖学(金原出版)、解剖学カラーアトラス(医学書院)				
教員の職務経験 (科目との関連性)	臨床現場での歯科医師の経験を活かしながら、専門領域である頭頸部の運動器系、循環器系、神経系、内臓系および歯牙形態に関して講義を行う。				

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1	口腔を作る骨 I	顔面ならびに口腔を構成する骨を概説できる1。
2	口腔を作る骨 II	顔面ならびに口腔を構成する骨を概説できる2。
3	口腔領域に存在する筋肉 I	頭頸部の筋の構成と機能を概説できる1。
4	口腔領域に存在する筋肉 II	頭頸部の筋の構成と機能を概説できる2。
5	口腔領域に存在する脈管 I	頭頸部の脈管を概説できる1。
6	口腔領域に存在する脈管 II	頭頸部の脈管を概説できる2。
7	口腔領域を支配する神経 I	頭頸部の神経を概説できる1。
8	口腔領域を支配する神経 II	頭頸部の神経を概説できる2。
9	口腔領域の内臓 I	口腔領域の内臓を概説できる1。
10	口腔領域の内臓 II	口腔領域の内臓を概説できる2。
11	歯の形態ならびに構造 I	歯種別の形態と特徴を説明できる1。
12	歯の形態ならびに構造 II	歯種別の形態と特徴を説明できる2。
13	歯の形態ならびに構造 III	乳歯の形態と特徴を説明できる。
14	歯の形態ならびに構造 IV	歯列と咬合を概説できる。
15	まとめ	歯の異常形態を概説できる、他。